



スライド番号1 「地震のしくみ」

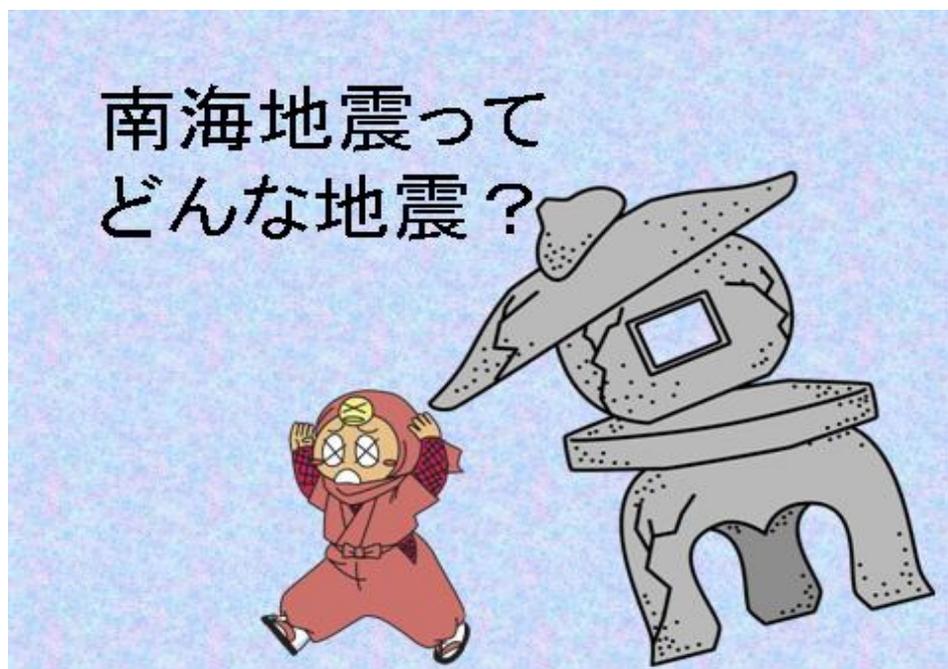
- | | |
|---------------|-------------|
| ・地球を覆うプレート | スライド番号 2~6 |
| ・地震はどうして起こるの？ | スライド番号 7~9 |
| ・震度とマグニチュード | スライド番号10~13 |
| ・徳島県の地震 | スライド番号14~16 |

番号	スライド	シナリオ
2		<p>学習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 地球がどんなプレートに覆われているか 地球のプレートがどう動いているか 地震がどこで発生するか 日本ではどうか
3		<ul style="list-style-type: none"> 地球の表面は10枚くらいの「プレート」という岩の板で覆われている。 プレートは、陸や海を乗せてゆっくり動いている。 動く方向やスピードは、プレートによって違う。
4		<ul style="list-style-type: none"> 世界で地震が起きた場所に赤い点をつけた地図。 地震が起きる場所と起きない場所があることがわかる。 プレートとの関係は？
5		<ul style="list-style-type: none"> 2枚の地図（プレート図と地震分布図）を重ねると、プレートの境目で地震が起こっていることがわかる。 日本はどこ？→日本は真っ赤。 日本は大変地震が多い国であることが読み取れる。 世界で起こる地震の1割、M6以上の地震の2割が日本で発生。
6		<ul style="list-style-type: none"> 日本の周りでは、4つのプレートがぶつかりあっているため、地震が多い。 ※ 日本では人の体を感じる地震が毎日平均3～4回おきている（日本では毎日どこかで地震がおきている）。 ※ 4つのプレートとは フィリピン海プレート、ユーラシアプレート、北アメリカプレート、太平洋プレート ※ プレートの移動スピード フィリピン海プレート—3～5cm/年、 太平洋プレート—8～10cm/年

番号	スライド	シナリオ
7		<p>学習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 海溝型地震の発生場所と起こり方 ・ 活断層で発生する地震の発生場所と起こり方 <p>※ 地震の種類は大きく4つに分けられる。①プレートの境界②海のプレート内③陸のプレート内④火山性地震</p>
8		<p>海溝型地震の起こり方の説明 (プレート境界型地震、プレート間地震ともいう)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 日本は、陸のプレートの上に乗っている。 2 海のプレートが陸のプレートの下に沈み込み、陸のプレートを引きずり込んでいる。 3 引きずり込まれた陸のプレートには「ひずみ」が蓄えられる。 4 蓄えられたひずみが限界を超えると、陸のプレートが急激に跳ね上がり、地震が発生する。 <p>※ 南海地震はこのメカニズムで発生する。 ※ 2011年東北地方太平洋沖地震はこのメカニズムで発生した。</p>
9		<p>陸のプレート内で発生する地震の起こり方の説明</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 海のプレートの動きなどによって、陸のプレート内に力が加わっている。 2 「ひずみ」が蓄えられる。 3 その「ひずみ」を解消するために断層運動が生じて地震が発生する。 <p>※ 陸の活断層で規模の大きな断層運動（ずれ）が生じると、地表付近にまでずれが現れる。 ※ 活断層とは：これまで繰り返し地震を起こし、今後も地震が発生すると考えられている断層のこと。 ※ 徳島の活断層 ・ 中央構造線 ・ 鮎喰川断層 ・ 上浦断層 ※ 阪神・淡路大震災はこのメカニズムで発生した。</p>

番号	スライド	シナリオ																											
10		<p>学習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 震度とマグニチュードの違い 日本周辺でのマグニチュード別地震発生回数 震度階級の解説 																											
11		<ul style="list-style-type: none"> 震度は、ある地点での揺れの強さを表したものです。 マグニチュードは、地震のエネルギーの大きさを表す単位。 ※ 例えば、マグニチュード8の地震が起きたとき、地震が起こった場所からの距離や地面の固さなどの違いによって、震度の大きさが変わってくる。 																											
12	 <table border="1" data-bbox="272 741 507 875"> <thead> <tr> <th>マグニチュード</th> <th>平均発生回数 (1年間)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2.0以上</td> <td>平均2.5回の発生回数 (太平洋沖地震のみ)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3.0-3.9</td> <td>10回程度</td> <td>昭和地震発生回(1)</td> </tr> <tr> <td>4.0-4.9</td> <td>1回程度</td> <td>昭和地震発生回(2)</td> </tr> <tr> <td>5.0-5.9</td> <td>1回程度</td> <td>昭和地震発生回(3)</td> </tr> <tr> <td>6.0-6.9</td> <td>1回程度</td> <td>昭和地震発生回(4)</td> </tr> <tr> <td>7.0-7.9</td> <td>1回程度</td> <td>昭和地震発生回(5)</td> </tr> <tr> <td>8.0-8.9</td> <td>1回程度</td> <td>昭和地震発生回(6)</td> </tr> <tr> <td>9.0-9.9</td> <td>1回程度</td> <td>昭和地震発生回(7)</td> </tr> </tbody> </table>	マグニチュード	平均発生回数 (1年間)	備考	2.0以上	平均2.5回の発生回数 (太平洋沖地震のみ)		3.0-3.9	10回程度	昭和地震発生回(1)	4.0-4.9	1回程度	昭和地震発生回(2)	5.0-5.9	1回程度	昭和地震発生回(3)	6.0-6.9	1回程度	昭和地震発生回(4)	7.0-7.9	1回程度	昭和地震発生回(5)	8.0-8.9	1回程度	昭和地震発生回(6)	9.0-9.9	1回程度	昭和地震発生回(7)	<p>マグニチュードの知識</p> <ul style="list-style-type: none"> マグニチュードが0.2大きいと、エネルギーは2倍。0.4大きいと4倍。0.6では8倍。0.8では16倍。1では32倍。2では1024倍。 ※ 東北地方太平洋沖地震は、兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）の384個分のエネルギーとなる。 ※ 東北地方太平洋沖地震（M9.0）は、発生当時、観測史上世界4番目の規模。
マグニチュード	平均発生回数 (1年間)	備考																											
2.0以上	平均2.5回の発生回数 (太平洋沖地震のみ)																												
3.0-3.9	10回程度	昭和地震発生回(1)																											
4.0-4.9	1回程度	昭和地震発生回(2)																											
5.0-5.9	1回程度	昭和地震発生回(3)																											
6.0-6.9	1回程度	昭和地震発生回(4)																											
7.0-7.9	1回程度	昭和地震発生回(5)																											
8.0-8.9	1回程度	昭和地震発生回(6)																											
9.0-9.9	1回程度	昭和地震発生回(7)																											
13		<ul style="list-style-type: none"> 南海地震が発生した場合の徳島県の揺れの想定は震度5強～6強。 震度5強：人は思うように動けない。固定していない家具が倒れることがある。窓ガラスが割れて落ちることがある。 震度6弱：立っていることが難しい。ドアが開かなくなることがある。 震度6強：立ってられず、はわないと動けない。山が崩れることがある。 																											
	<p>震度についての予備知識</p> <p>※詳しくは、気象庁の震度階級関連解説表をご参照ください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 震度は0、1、2、3、4、5弱、5強、6弱、6強、7の10段階ある。 震度0：人は揺れを感じない。 震度1：屋内で静かにしている人の中には、揺れを感じる人がいる。 震度2：屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。 震度3：屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。 震度4：ほとんどの人が驚く。電灯などは大きく揺れ、置物が倒れることがある。 震度5弱：大半の人が恐怖を感じる。食器や本が落ちることがある。 震度7：家具が飛ぶことがある。丈夫な建物でも倒れることがある。 																											

番号	スライド	シナリオ												
14		<p>学習内容 徳島県で発生することがわかっている地震について知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 南海地震 ・ 中央構造線活断層の地震 												
15	 <table border="1" data-bbox="242 577 521 645"> <thead> <tr> <th colspan="4">徳島県の被害想定</th> </tr> <tr> <th>災害時期</th> <th>建物被害</th> <th>津波</th> <th>総被害額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年の発生</td> <td>約2,500</td> <td>約1,700</td> <td>約11億 374,300</td> </tr> </tbody> </table>	徳島県の被害想定				災害時期	建物被害	津波	総被害額	1年の発生	約2,500	約1,700	約11億 374,300	<ul style="list-style-type: none"> ・ 南海地震は必ず起こる。 ・ 建物の耐震化、津波時の避難行動など、事前の備えで被害は少なくできる。 ・ 水道、電気、ガスも使えなくなるところが多い。 ・ 強い揺れだけで2～3分続く。
徳島県の被害想定														
災害時期	建物被害	津波	総被害額											
1年の発生	約2,500	約1,700	約11億 374,300											
16		<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内の活断層は他に、鮎喰川断層、上浦断層が見つかった。 ・ まだ見つかっていない断層もあるかもしれない。 ・ 30年以内の発生確率ほぼ0～0.3%というのは、我が国の主な活断層の中ではやや高いグループに属する。 <p>※ 兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）の発生直前の確率は、30年以内に0.02～8%だった。</p>												



スライド番号17 「南海地震ってどんな地震？」

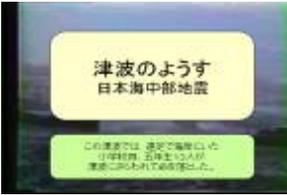
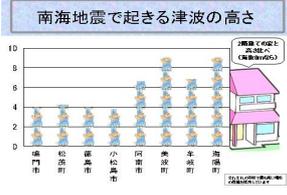
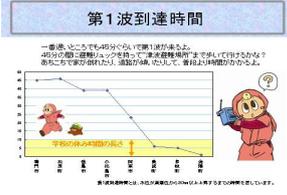
南海地震（海溝型地震）
くりかえす南海地震
過去の南海地震被害
地震津波碑
津波とは
地震による土砂災害

スライド番号18
スライド番号19～21
スライド番号22～26
スライド番号27～33
スライド番号34～39
スライド番号40～45

番号	スライド	シナリオ																								
18	<p>南海地震(海溝型地震)</p> <ul style="list-style-type: none"> 強い揺れ(震度5強～6強)が長く続く 津波が起きる 約100年ごとに繰り返す 今後30年以内の発生確率60%程度(南海トラフ地震) <p>徳島県の被害想定</p> <p>南海海溝型地震の巨震発生した時の予測される最大震動</p> <table border="1"> <tr> <td>震害時間</td> <td>建物被害</td> <td>津波</td> <td>総被害額</td> <td>合計</td> </tr> <tr> <td>平均約10分</td> <td>約12,500</td> <td>約11,700</td> <td>約100</td> <td>約24,300</td> </tr> </table>	震害時間	建物被害	津波	総被害額	合計	平均約10分	約12,500	約11,700	約100	約24,300	<ul style="list-style-type: none"> 南海地震は必ず起こる。 建物の耐震化、津波時の避難行動など、事前の備えで被害は少なくできる。 水道、電気、ガスも使えなくなるところが多い。 強い揺れだけで2～3分続く。(スライド番号15と同じ) 														
震害時間	建物被害	津波	総被害額	合計																						
平均約10分	約12,500	約11,700	約100	約24,300																						
19	<p>くりかえす南海地震</p>	<p>学習内容</p> <p>※ スライド番号15「南海地震(海溝型地震)」に、南海地震の特徴や被害想定があるので、併せて使うとわかりやすい</p> <ul style="list-style-type: none"> 90～150年間隔で繰り返す 強い揺れが長く続く 津波が起こる 																								
20	<p>南海地震がおこる場所</p>	<ul style="list-style-type: none"> 震源域とは：地面の下の岩盤には、大きな力がかかっている、その力にたえられなくなったとき、岩盤がずれるように壊れる(この現象が地震)。岩盤がずれた範囲を「震源域」という。 南海地震の震源域は、和歌山県沖から高知県沖にかけての広範囲である。 																								
21	<p>過去に起きた南海地震</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>南海地震</th> <th>東南海地震</th> <th>東海地震</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>発生年</td> <td>1707年</td> <td>1944年</td> <td>1946年</td> </tr> <tr> <td>発生期間</td> <td>約10分</td> <td>約10分</td> <td>約10分</td> </tr> <tr> <td>被害</td> <td>約12,500</td> <td>約11,700</td> <td>約100</td> </tr> <tr> <td>総被害額</td> <td>約100</td> <td>約100</td> <td>約100</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>約24,300</td> <td>約24,300</td> <td>約24,300</td> </tr> </tbody> </table>	種別	南海地震	東南海地震	東海地震	発生年	1707年	1944年	1946年	発生期間	約10分	約10分	約10分	被害	約12,500	約11,700	約100	総被害額	約100	約100	約100	合計	約24,300	約24,300	約24,300	<ul style="list-style-type: none"> 慶長、宝永、安政、昭和と、南海地震は繰り返し起きている(慶長以前も繰り返し起きていた)。 慶長地震・宝永地震は、東海・東南海・南海地震が同時発生したとみられる。 安政地震は、東海・東南海地震が同時発生した32時間後に南海地震が発生した。 昭和地震は、東南海地震の2年後に南海地震が発生。このとき、東海地震は発生していない。 東海地震は安政以後発生していない(150年を過ぎている)ので、いつ発生してもおかしくない。 東海地震が発生したら、慶長地震や宝永地震のように、南海地震も同時発生する可能性がある。
種別	南海地震	東南海地震	東海地震																							
発生年	1707年	1944年	1946年																							
発生期間	約10分	約10分	約10分																							
被害	約12,500	約11,700	約100																							
総被害額	約100	約100	約100																							
合計	約24,300	約24,300	約24,300																							

番号	スライド	シナリオ						
22		<p>学習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 過去の南海地震で徳島県内にどのような被害が出たか 						
23		<ul style="list-style-type: none"> 旧由岐町（現美波町）での写真。 津波によって船が陸に打ち上げられた状況。 						
24		<ul style="list-style-type: none"> 旧海南町（現海陽町）浅川での写真。 海から300m離れた畑に流されてきた船。 材木もたくさん流されたことがわかる。 津波の破壊力や浮力は強いので、いろいろなものを遠くへ押し流してしまう。 						
25	<p>昭和南海地震（徳島県）の被害</p> <ul style="list-style-type: none"> 昭和21年12月21日 午前4時19分4秒発生 マグニチュード 8.0 県内最大震度 5 (震いや半動で立って居られない、又地割れや建物の被害) 余震 月内に有感56、無感230回 津波の高さ4～6m <table border="1" data-bbox="247 1041 422 1075"> <tr> <td>死者・行方不明者</td> <td>全壊家屋</td> <td>流失家屋</td> </tr> <tr> <td>202人</td> <td>802棟</td> <td>413棟</td> </tr> </table> 	死者・行方不明者	全壊家屋	流失家屋	202人	802棟	413棟	
死者・行方不明者	全壊家屋	流失家屋						
202人	802棟	413棟						
26	<p>安政南海地震（徳島県）の被害</p> <ul style="list-style-type: none"> 1854年12月24日(安政東海地震の32時間後)発生 マグニチュード8.4 由岐町の山岡で津波打ち上げ高12m 浅川橋では全家屋流失、西牟婁津で木村のすべての家屋流失、東牟婁津では357戸のうち354戸流失と、壊滅的被害を受けたが、前回の安政南海地震によって被災した農家による浸水を避けるために高田へ避難していた人が多かったため、人的被害が少なかった。 <table border="1" data-bbox="263 1265 422 1299"> <tr> <td>全壊家屋</td> <td>流失家屋</td> <td>流失家屋</td> </tr> <tr> <td>約485棟</td> <td>約1498棟</td> <td>約1000棟</td> </tr> </table> 	全壊家屋	流失家屋	流失家屋	約485棟	約1498棟	約1000棟	
全壊家屋	流失家屋	流失家屋						
約485棟	約1498棟	約1000棟						

番号	スライド	シナリオ
27	 <p>地震津波碑</p>	<p>学習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県内の沿岸地域には地震津波の記録が残されている ・ 昔の人が経験した地震や津波の様子を石などに記して、後世の人たちに注意を呼びかける大切なもの
28	 <p>徳島県に今も残る南海地震の記録</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 徳島県には、これだけ多くの南海地震の地震津波碑が残されている。 ・ 昔の人がどういう思いで碑を残したのか？その思いをしっかりと受け止めて、教訓を活かすことが大切。 <p> 県内の地震津波碑についてまとめたものを、インターネットでご覧頂けます。 「南海地震を知る 徳島県の地震・津波碑」 http://150.59.246.93/bousai/earthquake/monument.html</p>
29	 <p>徳島県内で出版された南海地震・津波の記録</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 徳島県内で、南海地震・津波の記録を整理した本がたくさん出版されている。 ・ これらの書籍には、地域の悲惨な体験を後世に伝え、地震・津波による被害軽減に役立ててほしいという願いが込められている。
30	 <p>浅川観音堂石段「津波襲来地点石標」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海陽町浅川の観音堂に至る石段脇に、安政南海地震および昭和南海地震時の津波到達点を示す石標が建てられている。 ・ 安政津波は6.4m、昭和津波は4.1mの高さ。
31	 <p>徳島県 大岩「慶長・宝永地震津波碑」 1605年慶長地震 1707年宝永地震</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海陽町鞆浦漁港近くの大岩に、慶長南海地震と宝永地震の碑文が刻まれている。 ・ 左が慶長碑、右が宝永碑。 ・ 慶長碑には、午後10時に30mの津波が来襲、100余名の犠牲者が出たなどと刻まれている。 ・ 宝永碑には、約3mの津波が3度来襲したが、犠牲者はなかったなどと刻まれている。
32	 <p>春日神社「敬諭碑(けいゆんひ)」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 板野郡松茂町の国道11号沿いの春日神社境内に建っている。 ・ 漢詩で刻まれている。 ・ 「山は鳴り大地が揺れ、寺社や人家が多く倒れ、水が噴き出し（液状化現象）、火災も発生、津波により田や桑畑は海ようになった。恐ろしくあの世に陥るくらいの惨状である。さらに、厳しい寒さが骨身に沁み、寝具、食糧もなくて飢えていた。地震の翌日には、人々は疲れ果て、流言を流す者もいたが、被災者のために炊き出しを施す人もいた。余震は翌年になっても続いた」などと刻まれている。
33	 <p>蛭子神社「百度石」 1854年安政南海地震</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 砂岩の劣化が激しく、現在では4面のうち2面は剥落している。 ・ 「大地震に驚いた人々は、竹藪に逃げ込んだ。津波が来ると騒いで、驚いて船で逃げようとして船が転覆し、命を失った人がいた。津波の際には絶対船に乗ってはいけない。また、家が倒壊しコタツやカマドから出火することも多かったため、そのような時には、冷静になって火を消すことも肝要である。百年が経つ頃にはこのような大地震が起きるので気を付けよ」などと刻まれていた。

番号	スライド	シナリオ
34		<p>学習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津波の特徴 ・日本海中部地震の映像 ・南海地震の津波予測 ・津波からの避難について
35		<ul style="list-style-type: none"> ・津波はとても速く伝わる。速さは海の深さによって違い、水深4,000mではジェット機なみの速さ、水深10m(陸近く)でもオリンピック100m金メダリストなみの速さ。 ・水深が浅くなるほど波が高くなる。V字型の湾の奥などは、極端に波が高くなることもある。 ・津波はくり返し襲ってくる。第1波が最も大きいとは限らない。 ・引き波で始まるとは限らない。 ・海底から海面までの水が一度の動くため、家が流されるほどの強い力を持つ。特に引き波は流れが強い。
36		<p>昭和58年(1983)、秋田県沖で発生した地震。日本海側で10mを超える津波が発生した。この地震での死者は104名だったが、そのうち、100名が津波による犠牲者だった。</p>
37		<ul style="list-style-type: none"> ・低いところでも4m近く、高いところでは約9mの高さになると想定されている。 ・想定を超える高さになることもある。
38		<ul style="list-style-type: none"> ・第1波到達とは、満潮位より20cm以上海面が上昇したときのことであるが、津波の進む速度は速いため、すぐにもっと高い水位になると考えられる。 ・50cm以上になると、被害が出始めるといわれている。 ・避難路は、地割れや液状化、家屋やブロック塀の倒壊などで通りにくくなっているため、普段より避難に時間がかかる。
39		<ul style="list-style-type: none"> ・スピードの速い津波から逃げるには、遠くではなく『高いところへ』。 ・何度もくり返し襲ってくるので、津波警報・注意報が解除されるまで戻らない。 ・予想以上に波が高くなることもあるので、海や川を見に行かない。 ・避難勧告、避難指示を待たずに、早めに自主避難する。

番号	スライド	シナリオ
40	 <p>地震による土砂災害</p>	<p>学習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土砂災害の種類 ・土砂災害の前兆現象 ・急傾斜地崩壊危険箇所分布図 ・早めの自主避難
41	<p>土砂災害の種類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ かけ崩れ 突然、斜面が崩れ落ちる。過去にかけ崩れのあった斜面の周囲は注意が必要。 ・ 地すべり 比較的低やかな斜面で、一度に広い範囲がゆっくりと動き出す。大きな変化が見られないために初めは気づかない場合もある。 ・ 土石流 渓流に貯まった土砂が、一気に下流へ押し流される。自動車同様の速度で流れ、大きな破壊力を持つ。上流が崩壊した渓流では特に注意が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土砂災害には・かけ崩れ・地すべり・土石流の3種類ある。 ・ 条件によっては、大規模な山体崩壊を引き起こす場合もある。
42	<p>土砂に流された建物と建物内部</p>  <p>土石流に押し流された建物 土石流が押し流した後の建物内部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 左の写真（2008年岩手・宮城内陸地震）の建物内部にいた生存者によると、地震発生から約10分後に土石流が建物を押し流した。大きな揺れを感じたら、早めに避難することが望ましい。
43	<p>土砂で寸断された道路と土砂ダム</p>  <p>道路が通行できなくなることで、集落が孤立する。 土砂で川がせき止められて、水が溜まる。いつあふれ出すかわからない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土砂が道路をふさいで、集落が孤立する場合がありますので、数日分の水と食糧を備蓄しておく。
44	<p>土砂災害の前兆現象</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 形の変化 ・ 斜面の土の硬さや水分の量が変化し、斜面がゆるむ。 ・ 斜面の土が崩れやすくなる。 ・ 斜面からバグバグ音が聞こえてくる。 ・ 音の変化 ・ 木の根が折れる（倒れる）音がする。 ・ 土壌の空洞音がする。 ・ 山から大音響（山鳴り）がする。 ・ 水の変化 ・ 斜面から水が湧き出す。 ・ 川の水が急に濁る、または満ちる。 ・ 川や井戸の水が濁る。 ・ 匂いの変化 ・ 腐った土の臭いがする。 ・ 生米が腐った臭いがする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土砂災害の場合、高い確率で前兆現象が見られる。 ・ 前兆現象に気づくためには、どのような現象が起こるのかわかっておく必要がある。 ・ 前兆現象に気づいた場合は、早めに避難することが大切である。
45	<p>早めの自主避難</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前兆現象に気づいたり、大きな揺れを感じたら、避難指示を待たずに早めに避難する。 ・ 過去に土砂災害があった場所や発生条件を知っておく。 ・ ハザードマップで危険箇所を調べておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の命を守るためには、避難勧告や避難指示を待たずに、早めに避難を開始する。 ・ 土砂災害は以前に発生した場所やその付近で発生しやすいので、過去に土砂災害があった場所や危険箇所を知っておく。



スライド番号46 「地震から命を守るために」

- ・ 地震でこんな事が起こる
- ・ 身の守り方

スライド番号47～53
スライド番号54～60

番号	スライド	シナリオ
47		<p>学習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 建物の被害について（屋外、屋内） ・ ライフラインの被害について ・ 道路や山、海の被害について
48		<ul style="list-style-type: none"> ・ コンクリートの建物は、ガラスが割れたり、壁が剥がれたりする。 ・ 木造の建物は、瓦が落ちたり、ドアが開かなくなったりする。倒れる建物もある。
49		<ul style="list-style-type: none"> ・ 看板やガラス、瓦、コンクリート壁などが落ちてくる。
50		<ul style="list-style-type: none"> ・ 固定していない家具や電化製品は動いたり倒れたりする。 ・ 食器が散乱して割れる。 ・ 棚の物や額、吊り下げ式蛍光灯などが落下する。
51		<ul style="list-style-type: none"> ・ 電気、水道、ガス、電話が一時的に使えなくなる。 ・ トイレが使えない、手や顔を洗えない、料理が作れない、テレビから情報を得られない、家族や知り合いと電話で連絡が取れない、扇風機・冷房・暖房などが使えない。
52		<ul style="list-style-type: none"> ・ 地割れが起きる。 ・ 液状化現象や津波浸水で地面に水がたまる。 ・ 地面が傾く。 ・ ブロック塀や自動販売機などが倒れる。 ・ 火事が起きる。
53		<ul style="list-style-type: none"> ・ 山崩れが起こる。 ・ 津波が起こる。

番号	スライド	シナリオ																
54	<p>身の守り方</p>	<p>学習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 揺れている間の身の守り方 家具の固定について 非常持ち出し品の準備 家族との話し合い 																
55	<p>低い姿勢で頭を守る</p> <p>近くにあるもので頭を守る</p>	<ul style="list-style-type: none"> 大きく揺れているときは、転倒したり、飛ばされたりすることがあるので、姿勢を低くする。 机やベンチ、ベッドなど丈夫なものが近くがあれば、その下に入る。 頭のケガを防ぐため、近くにある物を頭に乘せて頭を守る。何もなければ、手で守る。 																
56	<p>津波から身を守るには</p> <ul style="list-style-type: none"> 高いところへ上げる もどらない 海を見に行かない 	<ul style="list-style-type: none"> スピードの速い津波から逃げるには、遠くではなく『高いところへ』。 何度もくり返し襲ってくるので、津波警報・注意報が解除されるまで戻らない。 予想以上に波が高くなることがあるので、海や川を見に行かない。 避難勧告、避難指示を待たずに、早めに自主避難する。 																
57	<p>早めの自主避難</p> <ul style="list-style-type: none"> 前兆現象に気づいたり、大きな揺れを感じたら、避難指示を待たずに早めに避難する 過去に土砂災害があった場所や発生条件を知っておく ハザードマップで危険箇所を調べておく 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の命を守るためには、避難勧告や避難指示を待たずに、早めに避難を開始する。 土砂災害は以前に発生した場所やその付近で発生しやすいので、過去に土砂災害があった場所や危険箇所を知っておく。 (スライド番号45と同じ) 																
58	<p>家具を固定しよう</p> <p>地震のとき、ケガをした原因は？</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>家具種別</th> <th>ガラス</th> <th>破損物</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>家具類</td> <td>4.1%</td> <td>8%</td> <td>4.9%</td> </tr> <tr> <td>寝具類</td> <td>5.0%</td> <td>1.5%</td> <td>6.5%</td> </tr> <tr> <td>子供遊具</td> <td>3.6%</td> <td>1.4%</td> <td>5.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>寝室と子ども部屋の家具転倒率が他の部屋より高い</p>	家具種別	ガラス	破損物	合計	家具類	4.1%	8%	4.9%	寝具類	5.0%	1.5%	6.5%	子供遊具	3.6%	1.4%	5.0%	<ul style="list-style-type: none"> 地震のときは、倒れてきたタンスや割れた食器などでケガをすることが多い。 地震でのケガを防止するには、家具を固定したり、ガラス飛散防止フィルムを貼っておくのが効果的。 寝室や子ども部屋には、背の高い家具を置かないなど、配置の工夫も必要。
家具種別	ガラス	破損物	合計															
家具類	4.1%	8%	4.9%															
寝具類	5.0%	1.5%	6.5%															
子供遊具	3.6%	1.4%	5.0%															
59	<p>非常持ち出し品を準備しよう</p> <p>1次持ち出し品(ひびなんリュック) 3日程度生活するために必要な水や食料、寝具を入れる(避難場所まで持ち帰る重さ)</p> <p>2次持ち出し品(備蓄品) 3日~1週間程度の食料や寝具、日用品など(避難先で持ち出し品に追加して置く)</p> <p>電気、ガス、水道、電話が使えないときに備えて何を準備しておけばいいかな？</p> <p>早く取り出せる場所に置いて、家族全員で知っておこう</p>	<ul style="list-style-type: none"> 非常持ち出し品は、1次持ち出し品と、2次持ち出し品に分けられる。 1次持ち出し品は、家族が約1日間生活するために必要な水や食べ物、防寒着、携帯ラジオ、懐中電灯、予備乾電池などを入れておく。徒歩で避難場所まで運べる重さにして、リュックサックに入れておく。 ※リュックサックに入れる理由：災害時は徒歩での避難が基本であるが、避難路は倒壊家屋や瓦礫の散乱、道路の崩壊などで障害物がたくさんあるため、両手を使える状態にしておくため。 2次持ち出し品は、3日~1週間程度家族が生活するために必要なものを備蓄しておく。避難の翌日くらいに取りに帰る物なので、倉庫や車の中、ベランダなど取り出しやすい場所に分散保管しておく。 水の備蓄量の目安：1人1日3リットル 水道、電気、ガスが使えなくなると、何ができないか？何に困るか？を考えて、その備えをする。 家族構成によって必要な物は違う。(コンタクトレンズ使用者がいる、赤ちゃんの粉ミルクやおしめがいているなど) 																

家族と話し合っておこう



家の中で一番安全な場所
家族が離れているときの集合場所
ひなする道を決めておく(2つ以上)
ひなカードを作って置く

- ・ いざというときにどう行動すればよいかを、平常時に家族と話し合っ、約束しておく。
- ・ 家の中に、倒れる物や落ちてくる物がない場所を作り、小さな揺れを感じたときにすぐにその場所へ移動する。
- ・ 自宅から一番近い避難所などを、家族が離れているときの集合場所として決めておく。
- ・ 避難路は、できるだけ広い道を選ぶ。家屋の倒壊や火災、浸水などで通れなくなる可能性があるため、複数の避難路を考えておく。
- ・ 避難カードを作り、家族の写真と一緒にしておく。家族の写真は、離れ離れになった家族を捜してもらうときに役立つ。